

1 ヨハネ 5:6-12 「神の証し」

1. 序論

互いに愛し合うことへの励ましとして、今日の箇所が語られています。

2. 本論

2.1 神の証し（御子への信仰）

9節「**私たちが人の証しを受け入れるのであれば、神の証しはそれにまさるものです。御子について証しされたことが、神の証しなのですから。**」

もし人の証しであるならば、100%の信頼、信用を置くことは難しいでしょう。しかし、神さまが教え導き、保証してくださるのであれば、私たちはそこに100%の完全な信頼、信用を置くことができます。私たちは平安をもって、御子イエスさまを信じ続けることができます。

2.2 神の証し（永遠のいのち）

11-12節「**その証しとは、神が私たちに永遠のいのちを与えてくださったということ、そして、そのいのちが御子のうちにあるということです。御子を持つ者はいのちを持っており、神の御子を持たない者はいのちを持っていません。**」

私たちは永遠のいのち（御父と御子との交わり）の中で生かされています。永遠のいのちを味わうものとして生かされています。しかも、その永遠のいのちは確かなものであると神さまが保証してくださっています。だから、平安をもって互いに愛し合うことができます。あなたがたは御父と御子との交わりの中にいるのだから、あなたがたは安心して平安をもって互いに愛し合いなさいと言います。互いに愛し合うことができるかどうか、疑いを持つ必要がないと私たちに励ましてくださいます。

3. 結論・適用

私たちの信仰の土台はどこまでも神さまにあります。神さまご自身が教えてくださり、保証してくださっている事実。神さまによってイエスさまを信じ、神さまによって主との交わりに入れられているという事実。これらの恵みの事実が私たちに励まします。その恵みの事実を励まされて、私たちは互いに愛し合うことへと突き動かされていきます。